

キーワード： ソーシャルスキル 定時制高校 心理社会的適応

## I. 研究の背景

ソーシャルスキルとは、「対人関係を円滑に運ぶための知識とそれに裏打ちされた具体的な技術やコツ」と定義されている(以下、SS)。これまでの研究では、SSの高い児童・生徒は、他者と親密で質の高い関係を構築できること、学業成績が良いことが報告されている。一方、SSの低い児童・生徒は、相手の表情を読み取ることが苦手である、自分の思いをうまく伝えられない、周りの状況を把握して行動できないなどのコミュニケーションの問題を抱える傾向があることが明らかになっている。さらに、このようなコミュニケーション問題が、対人関係の困難さや、学校不適応状態を引き起こす背景となっていることが指摘されている。また、SSの低い子どもは孤独感を感じやすく、うつ傾向があることがわかっている。さらに、SSの習得や成熟は、心理社会的適応状態(自己肯定感、他者肯定感、社会的支援、自己効力感)や精神的健康に影響することが指摘されている。2011年に首都圏の定時制高校に通う生徒を対象として行われた調査では、44.2%の生徒が不登校の経験を持つことが報告されている。全日制高校生を対象とした調査では、不登校の背景要因のひとつとして、SSの低さがあることが明らかになっており、SSを高めることで、不登校の問題への対応が試みられている。しかしながら、定時制の高校生を対象としたSSに関する研究の蓄積は少なく、定時制高校の生徒のSSの実態、またSSの多寡と、心理社会的適応状態との関連については十分に明らかにされていない。定時制高校生のSSを向上させるためには、定時制高校生のSSの実態、およびSSの多寡と心理社会的適応状態との関連について詳細に把握し、得られた結果をもとに、SSの向上のための効果的な方策を検討して行く必要がある。

## II. 研究の目的

本研究では、1)定時制高校生のSSの実態 2)SSと心理社会的適応状態との関連について検討することを目的とした。さらに、3)得られた結果をもとに、定時制高校生のSS向上のための効果的な教育プログラムを提案することを目的とした。

## III. 研究の方法

本研究では、まず、2013年9月に、N県S市の公立定時制N高校に勤務する養護教諭を対象として、N高校の生徒の不登校および生活状況等に関する聞き取り調査を行った。次に、聞き取り調査で得られた情報をもとに、成人用ソーシャルスキル自己評定尺度(相川・藤 2005)、自己肯定感尺度、他者肯定感尺度、自己効力感尺度(本田 2007)、社会的支援尺度(細田 2009)を参考に、質問紙を開発した。その後、2013年10月～11月に、N高校の1～4年生の全生徒を対象として、自記式の質問用紙を用いて回答を得た。調査データの分析は、SSについては、総合得点及び、6つの下位尺度(「関係開始」、「主張性」、「感情統制」、「関係維持」、「記号化」)について、性差、学年差をMann-WhitneyのU検定を用いて評価した。またSSと心理社会的適応状態(自己肯定感、他者肯定感、社会的支援、自己効力

感)との関連について、Spearmanの相関分析を用いて評価した。

## IV. 結果と考察

当日の欠席者を除いた54名(男子31名、女子23名)をデータ分析の対象とした。平均年齢は、男子17.4±1.3歳、女子17.2±0.9歳であった。

### (1) N高校の生徒の不登校および生活状況

聞き取り調査の結果、約7～8割の生徒が、不登校経験者であり、家族との信頼関係が築けている生徒ほど、対人関係が良好である傾向があることが分かった。

### (2) 定時制高校生のSSの実態

定時制高校の学生のSSの平均値は、都市部の大学生の調査結果(相川 2005)に比べて、感情統制以外の全ての項目で低かった。また、6つの下位尺度の項目ごとの分析では、関係開始、記号化の得点が特に低かった(表1)。また、性別および学年の違いによるSSの得点には有意な差は認められなかった。関係開始のスキルとは、他者とスムーズに対人関係をつくるきっかけや関係を持つスキルのことである。また、記号化は、気持ちや感情を適切に表現できるスキルのことである。N高校の定時制の生徒の多くが不登校経験を有していることから、過去の人間関係の負の影響により、新たな人間関係をつくったり、自分の気持ちを素直に表現することに対して、困難を感じていることが影響していると考えられた。

＜表1 SSの6つの下位尺度の平均値の比較＞

SS 6つの下位尺度	N校 平均値	SD	都市部大学生 平均値
関係開始	1.77	±0.5	2.48
解釈	2.47	±0.6	2.72
主張性	2.27	±0.4	2.48
感情統制	2.46	±0.4	2.29
関係維持	2.59	±0.6	2.89
記号化	2.29	±0.6	2.89

### (3) SSと心理社会的適応状態との関連

SSと社会的支援( $r=0.453, P=0.003$ )、SSと自己肯定感( $r=0.638, P>0.001$ )の間に、有意な相関がみられた。これらのことから、SSを高めていくためには、親や教員、友達等からの社会的支援の充実と、自己肯定感を高めるような教育内容を盛り込んでいくことが必要となる。

## VI. 結論

本研究の検討の結果、定時制の高校生は、特に関係開始、記号化に関するSSスキルが低いことが明らかになった。また、SSの多寡が、社会的支援、自己肯定感に関連する可能性が示唆された。上記の結果より、定時制の高校生のSSを向上させるためには、教師や親、生徒同士のかかわりや交流を促進すること、また、挨拶や、相手の気持ち考える、感情を表現する等のスキルの向上を目指した教育プログラムが効果的であると考えられた。